

第2学年 道徳 学習指導案

奈良教育大学附属中学校

教諭 加々見 良

1. 単元名 「生きやすい社会をつくるために」

2. 単元の目標

- 多様な性が存在することやそれが尊重されることが大切であることがわかる。
(知識及び技能)
- 生きやすい社会を作るために大切なことは何かについて考えることができる。
(思考力・判断力・表現力)
- 相互理解の第一段階として、相手の意見を理解することと同時に自分の意見も自信を持って相手に伝えることができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、トランス女性として出場した選手を題材として、性の多様性が尊重されることや個性の伸長、相互理解、公平性など様々な視点に立ち、生きやすい社会をつくるために大切なことについて考えさせる。

(題材の概要)

2021年の東京五輪女子重量挙げに、トランス女性のローレル・ハバード選手（ニュージーランド）が出場する。東京大会が掲げた「多様性と調和」を象徴する出来事とされる一方、公平性の観点から賛否が分かれた。

(2) 生徒観

本校の第2学年の生徒は、何事にも一生懸命取り組もうとすることができる集団ではあるが、QU アンケートでは、「周りの目が気になり、不安や緊張を覚えることがある」という質問項目に対する回答が全国よりも望ましくない傾向にあるという結果が出ている。この背景には、自分に対して自信を持てていなかったり、一部に冷めた雰囲気があることで、「受け入れてもらえている」と感じていない生徒もいる。

(3) 指導観

今回取り上げる題材については、多様な性があることやそれが今日的な課題であることをまず理解させる。トランスジェンダーも含めて新しい公平性の形について考えさせていく。ローレル選手の視点で捉えていき、ローレル選手が選択した「自分らしく生きること」やローレル選手の出場を尊重する周囲の人が存在すること、批判する人がいることもローレル選手は理解していることなどから「個性の伸長」や「相互理解」、「よりよく生きる喜び」など様々な道徳的観点が関連していることに気づかせていきたい。

さらには、多様な価値観やアイデンティティを内包している集団の中で、生きやすくするために大切なことや必要なことにつなげて考えさえていきたい。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

多様性・・・「男性だから…」「女性だから…」と決めつけることなく、多様な性をもつ人がいることを認め合えることが大切であること。

公平性・・・従来の男子種目、女子種目という捉えだけでなく、多様な性の視点を取り入れないとトランスジェンダーの人たちが取り残されてしまうことがありうるということ。また、それぞれの立場を理解したうえでルール of 公平性を考えることが今日的な課題であるということ。

連携性・・・まずは、お互いのことを知り、理解するところから集団の中で認め合うことや支え合うことが生きやすい社会をつくるうえで大切であること

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

多面的・総合的に考える力 (システムズ・シンキング)

トランス女性が参加することを尊重する立場がいることと、それを批判する人は「どのようなことを批判しているのか」を理解することで、課題や大切にすることを考えられること。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

人権・文化を尊重する

多様な性の人を尊重する心を持つことが大切であるということ。

幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

お互いに「自分らしく生きる」ことを認め合える社会を作り上げることが生きやすさにつながるということ

・達成が期待される SDGs

5 ジェンダー平等を実現しよう

10 人や国の不平等をなくそう

4. 単元の評価規準について

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
LGBTQ やその多様な性が認められることの価値について理解している。	個性が認められることやお互いを理解することなどの視点に立って、生きやすい社会を作るために大切なこと・必要なことについて考えている。	相互理解や個性を尊重するためにも、相手の意見をどのように受け取るか、自分の主張をどのように伝えるか考えて行動している。

5. 単元の指導計画（全2時間）

次	主な学習活動	学習への支援	評価
1	<p>○ローレル・ハバード選手の試合動画を見る。</p>	<p>○LGBTQ やローレル選手の概要を説明する。</p> <p>○東京オリンピックで掲げていたコンセプトや出場規則とその時挙がっていた批判について紹介し、ローレル選手が置かれている状況を想像しやすくする。</p>	(ア)
<p>中心発問：「もし、自分がローレル選手の立場であれば、オリンピックに出場しますか？」</p>			
	<p>○もし、自分自身がローレル選手の立場であれば、オリンピックに出場するかどうか考えさせる。考えたのち、グループになって意見交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック委員会の基準をクリアしているから堂々と出場する。 ・公平ではないと批判している人もいるから出場したくない。メダルを取れば、さらなる批判が出るかも… 		(ウ)
2	<p>○ローレル選手が出場する際に答えたインタビュー内容について紹介し、なぜローレル選手は出場することを決めたのかを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私にできるのは、自分自身であること、自分らしく行動することだけだ」 ・ニュージーランドで応援してくれた人々に多くの愛、勇気をもらえて感謝していること。 		(イ)
<p>中心発問：「様々な価値観や感じ方の人がいる中で、それぞれの人が生きやすい集団・社会をつくるうえで大切なことは何だと思いますか？」</p>			

	<p>○多様な価値観やアイデンティティを持つ人がいる集団の中で、それぞれが生きやすい集団・社会をつくっていくために大切なことについて考えさせる。考えたのち、グループになって意見交流・共有をする。</p>	<p>○本單元では、性的志向を切り口にしてはいるが、集団・社会の中で生きていく中では、より多様な要素、視点があることに触れておく。</p>	<p>(イ) (ウ)</p>
--	---	---	----------------

ローレル選手はトランス女性として、史上初オリンピックに出場した選手である。

国際オリンピック委員会（IOC）が2015年にトランスジェンダー選手の出場について、男性ホルモンのテストステロン値が12カ月間にわたり一定以下なら、女子として競技することを認めるとするガイドラインを策定して以降、ハバード選手にはトランスジェンダー選手としてオリンピックに出場する資格があった。

女性として生まれた選手に不公平だという批判も出ている。

男性として第二次性徴期を過ごした人は、骨密度や筋肉量が女性より高くなるなど、生物学的に有利だという指摘もある。

（ハバードが出場するせいで）メダルや五輪出場など人生の大きなチャンスを失う選手もいるというのに、私たちは無力だ

「私にできるのは、自分自身であること、自分らしく行動することだけだ。もし人々が（そこから）インスピレーションを見つけてくれれば素晴らしいけれど、それを目指しているわけではない」とハバードは述べた。「私は私。私は世界を変えるためにここにいるのではない。ただ自分自身でありたいし、私らしく行動したいと思っている」これほど多くのニュージーランドの人たちが、私を温かくサポートしてくださったことに心から感謝し、そして恐縮しています

「ローレルは、IOCのトランスジェンダーアスリートのガイドラインを元に定められた、IWFの参加資格を満たしています」

「私たちはスポーツの世界で、性自認がとてもしんせつてぶで複雑なものであり、人権と競技の場における公平さのバランスを取る必要があることを理解しています」

「ニュージーランドチームには、全ての人へのマナーキ（マオリ語で相手を敬い、大切に温かく迎えること）とインクルージョン、そして尊敬の文化があります。私たちは資格を満たしたすべてのニュージーランドのアスリートたちを支え、彼らの精神的・身体的な健康を守り、トップアスリートたちのニーズを満たします」